

年間目標	<ul style="list-style-type: none"> ○全身運動、手指の微細運動の発達により探索活動が盛んになるので、安全に留意して十分に活動できるようにする。 ○食事・排せつ・睡眠・着脱など身の回りのことを自分でしようとする意欲を育て、生活習慣の自立を促す。 ○自分の思いや意欲を言葉で表現しようとする気持ちをはぐくむ。 ○模倣やごっこ遊びを通して友達との関係を広げる。 ○保育者のさりげない援助によって、自我を順調に形成させる。 ○喜んで礼拝に参加し、暗唱聖句や讃美歌を歌おうとする気持ちを育む。 	
期(月)	I 期 (4 月・5 月)	II 期 (6 月・7 月・8 月)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○新しい環境に慣れて安定して過ごせるようにする。 ○不安や要求を受け止められて、安心して自分の気持ちを表すことができる。 ○保育者に見守られながら好きな遊びを見つけて遊ぶ。 ○散歩や戸外遊びを通して自然に親しみ、のびのび遊ぶ。 ○喜んで合同礼拝に参加する。 	<ul style="list-style-type: none"> ○友達とトラブルが増えてくるが、保育者の仲立ちによって言葉で伝えられるようになる。 ○友達と遊ぶことを喜ぶ。 ○日常的な身の回りのことを自分でしようとする。 ○夏の遊びを楽しむ。 ○全身を使った遊びを十分にして、健康に過ごす。 ○讃美歌を覚えて歌う。○お祈りをしようとする。○聖句と一緒に暗唱する。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○健康状態・発育状態を定期的、継続的に把握して健康の保持と増進に努める。 ○ひとりひとり子どもの気持ちを十分に受け入れ、保育者との信頼関係を築く。 ○安心できる保育室の環境を整え玩具などの媒体を適切にそろえる。 ○生理的な要求を満たし、食事・睡眠・排せつが安心してできるように生活の流れやしかたを配慮する。 ○好きな遊びがいつでもできるよう、環境を整える。 ○子どもがのびのび遊べるように安全に気を配り事故の予防に努める。 ○保育者といっしょに歌ったり手遊びをしたり体を動かしたりして、楽しく遊びながら、発達に応じた働きかけを行なう。 ○クラスの列に整列し、静かに礼拝の時間を過ごす。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ひとりひとりの甘えや要求を受け入れ安心して生活できるように生活の流れや環境を整える。 ○新しい環境に慣れて保育者や友達の名前がわかってかかわれるよう楽しい遊びを広げる。 ○保育者や友達といっしょに模倣遊びや再現遊びを繰り返し楽しむ。 ○友達と遊ぶ楽しさと合わせて自分の思いが通らないでけんかをしたり、泣いたり、怒ったりする気持ちをしっかり受け止める。 ○保育者の仲立ちによって相手の気持ちに気づき、待つことやがまんする経験を根気強く知らせていくようにする。 ○生活の流れがわかってきて自分でしようとする意欲を認め、さりげなく援助しながら自信をはぐくむ。 ○水遊びや砂や土を触って可塑性のある遊びを十分に楽しむ。 ○楽しくプールや水遊びをするため健康状態や安全には十分に留意し、疾病や感染症の把握を徹底して、発症の場合は適切に対処する。 ○月ごとの讃美歌や暗唱聖句を覚える。楽しんで歌うことができる。

年間目標	(※年間目標の記述は I 期より継続) →	
期(月)	(9月・10月・11月・12月)	Ⅳ期(1月・2月・3月)
ねらい	<ul style="list-style-type: none"> ○いろいろな行事に参加し遊びを通して、人とかかわりを楽しみ、参加する楽しさを知る。 ○いろいろな場面で自分の思いを言葉で伝える。 ○ごっこ遊びや集団遊びを通して友達と遊ぶことを楽しむ。 ○季節の変化を感じながら、元気に遊ぶ。 ○お祈りすることができる。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活に必要な習慣が身につく、自分でできることが増えていく。 ○興味のあることに意欲的に取り組む。 ○友達といっしょに遊ぶ中で、友達とのつながりが深まっていく。 ○自我の形成が進み自分のしたいこと、してほしいことがはっきりしてくる。 ○異年齢児とかかわりが深まっていき、進級することに期待を持つ。 ○月ごとの聖句を暗唱し、発表することができる。
内容	<ul style="list-style-type: none"> ○季節の変わり目の健康状態の把握に努め、体調の変化には適切に対処する。 ○暑い寒いを感じて自分で衣服の調節ができるように促したり、見守ったり、さり気ない援助を行ないながら自立心をはぐくむ。 ○季節の変化に気づき自然に親しむ。 ○気の合う友達といっしょにごっこ遊びを十分楽しめるようにする。遊びが見つからない子どもに対しては好きな遊びが見つけれられるようにいっしょに「楽しいね」という気持ちを共有しながら他児とかかわりを持てるように配慮する。 ○保育者もいっしょに全身や手指を使って遊びを楽しみ興味あること、経験したことをいろんな方法で表現して遊べるようにする。 ○絵本の内容のおもしろさがわかってきて好きな場面や簡単なストーリーを追いながら見立て遊びを楽しむ。 ○「できた」ことを優先させるのではなく、「やりたい」という意欲を認め励まし自信につなげていく。 ○お友達と声を合わせてお祈りをする機会を与える。 	<ul style="list-style-type: none"> ○生活の流れがわかり簡単な決まりがわかってくる、と自分でできることが増えてお手伝いを喜ぶ。 ○生活に必要な経験の中から子どもひとりひとりの意欲を認め、満足感や達成感が味わえるようにする。 ○「ジブンデ」という気持ちや思いを譲れないことも多いが保育者が仲立ちとなって相手の気持ちに気づいていけるよう葛藤している気持ちをしっかりと受け止め、気持ちの整理ができるように援助する。 ○いろいろな方法でごっこ遊びやつもり遊びを楽しみ言葉を自由につかって遊べるようにする。 ○全身を使って十分に遊べるように活動範囲を広げ、安全の配慮を行なう。 ○簡単なルールのある遊びを通して友達と遊ぶことが楽しいとわかるように場面づくりを楽しみながら順番を「待つこと」などができるように知らせていくようにする。 ○異年齢児とのふれあいの機会を持つことで小さい人へはいたわりの気持ちを、大きい人へはあこがれの気持ちが持てるように、みんなと安心して遊べる環境や雰囲気大切に整えていく。 ○朝の会、帰りの会でみんなの前で暗唱聖句をする。